

愛育班員バッジ
中央に“双葉”外側に“なでしこの花”

甲府市愛育だより

第39号

編集・発行

甲府市愛育連合会
甲府市地域保健課
甲府市相生2-17-1
TEL 237-1173

「愛育のこころ」を繋いでいく

甲府市愛育連合会 会長 山本 秀樹

日頃より愛育会活動にご理解並びにご協力をいただきありがとうございます。さて、各地区愛育会は後継者に課題を抱えており、活動を続けて行く事が厳しい状況ではありますが、待っている人達があります。楽しいを第一に、できることを、無理しないで活動を続けていきましょう。私事ですが、第57回愛育班員全国大会において、会長表彰を賜りました。大変光栄なことと感じました。この度の表彰は地区の班員の方々、活動を支えて下さった育成者のご尽力で、活動を続ける事ができた結果だと心より感謝しております。また、秋篠宮皇嗣妃殿下よりお言葉を賜り、とても幸せなひとときでした。この気持ちを心の支えに、今後も愛育活動を続けて参りたいと思っております。

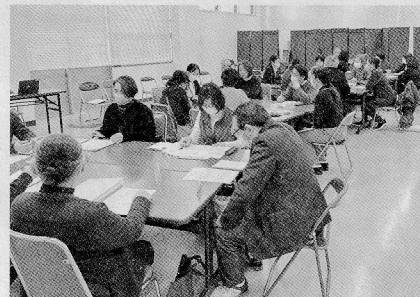
第57回 愛育班員全国大会



広く開かれた愛育会活動をめざして

甲府市愛育連合会は、山本会長をはじめ、25地区中4地区で男性が会長を務めています。昨年4月の恩賜財団母子愛育会第57回愛育班員全国大会において、山本会長が愛育班活動功労者として表彰されましたが、男性では全国初の快挙です。山梨県愛育連合会の会合でも「どうしてそんなに多くの男性が参加しているのか」と聞かれるそうです。最近では、老々介護やワンオペ育児など、愛育会活動が始まった頃とはまったく違った形の問題が起きています。社会生活や考え方の変化、コロナ禍の影響もあって、地域社会の結びつきが希薄になってきている

ことが原因の一つと思われます。核家族化、みんなが忙しくなっていること、ご近所のおじちゃんおばちゃんとおつきあいが減ったことなど、昔のようなコミュニティは成立しなくなっています。それにどう対応するか、色々と考えつつ、「主婦や女性だけに任せておかない」「家族として男性も育児や介護予防に参画する」「おせっかいおじちゃんおばちゃんになってみよう」などと考え、「愛育会」から「女性部」の枠を取り払う自治会が増えてきています。「他人事」から「自分事」に。たくさんの人に愛育会を知ってもらい、男性の参加も募って楽しい愛育会活動を広めていこうと、甲府市愛育連合会は変わりつつあります。



ふれあいくらぶ・子育て支援研修

今回のふれあい子育て研修は、昨年子ども応援フェスタで、短時間で魔法のように様々なカタチの切り紙を作る愛育班員をみて「こういう楽しいことを皆でやってみよう」と山本会長が提案し、愛育班員に講師をお願いして研修会を実施しました。紙を切ってカタチを作ることは子どもからお年寄りまで楽しむことができ、工夫次第ではふれあいくらぶにも子育てにも活用できる内容でした。愛育班員の持つ技術や得意なことを、他の班員に伝え、共有し楽しむこと



と、それが愛育活動の幅を広げ、愛育の未来を切り拓くことに繋がると気づくことのできる研修となりました。参加者も終始、真剣かつ笑顔で参加し、楽しいひとときでした。切り紙の次には甲府市の歌体操を体験しました。座ってできるバージョンでしたが、楽しいながらもなかなかハードに感じられました。切り紙作業で凝り固まった体もほぐれ、心地良く帰途につきました。研修会終了後は、参加者が研修で学んだことを他の愛育班員に伝え、各地区のふれあいくらぶや子育て支援で活用しています。今後も楽しい研修会を開催し、愛育活動に活かしていきたいと思っております。

